



SCI Agritech @栃木県の水田農家

NEWSLETTER

Vol.08

2021年 夏季特別号

クラウド型水管理システム

水田farmo設置農家への訪問&インタビュー

8月4日に株式会社farmo(旧ぶらんこ)の開発したクラウド型水管理システム「水田farmo」(水位センサー、自動給水ゲート)を導入している2軒の農家を訪問し、導入の経緯、導入後の変化や効果などについてヒアリングを行いました。

1人目は、個人経営で1.7haの水田を管理している上吉原(かきわら)さん。2人目は酒米も含め計35haもの面積で、約100枚の水田を保有し大規模な家族経営をする五月女(いつくご)さん。それぞれ異なる背景やICT機器導入への考え方をお持ちで、スマート農業の実態を現場レベルで知る良い機会となりました。今回は、そのヒアリングの内容を一部ご紹介します。

農家さんの基本情報

Interviewee No.1



上吉原 均 さん (宇都宮電子株式会社 代表取締役社長)

栃木県日光市瀬川にて計1.7haの水田を保有する兼業農家。2020年より水田farmoを活用し、社長を務めながらも代々の土地を維持。栽培品種はミルキークイーン。収穫の殆どが自家消費用と知り合いへの販売。一部JAへ出荷。

Interviewee No.2



五月女 文哉 さん (専業農家)

栃木県大田原市にて400年以上も続く、計35haの水田を保有する稲作専業農家。家族経営でコシヒカリと酒米、飼料用稲を栽培。育苗・乾燥・精米・販売までの全てを自身で行っている。水田farmo使用歴は約6年、自動走行トラクタや除草用ドローンも導入している。

水田farmo導入前に感じていた課題は？



上吉原さん

水温が低い(12~13℃)地域であるために、夜間に水を入れて日中に水温を上げる工夫をするなど、一般的な水管理をする方法ではダメで、手間だった。



五月女さん

見回りに毎日5~6時間(朝夕で各2.5~3.0h)かかっていたのがネックだった。毎朝4時に起きて水田を見回る必要があり、いつも余裕がなかった。

水田farmo導入後の変化や効果は？



上吉原さん

従来は、朝夕に1回50分、車で水田まで行ってたが、導入後は見回り時間を大幅にカットでき、さらに仕事先からもアプリで水位が確認できるので楽になった。



五月女さん

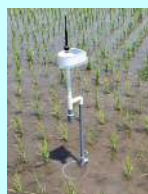
従来は、毎日5~6時間見回りをしてたが、導入後その時間は半減した。朝、アプリを確認し、見回り計画ルートを考えて効率的に動ける。時間に余裕が出来て落ち着いて考えたり作業できたりするようになった。そのおかげで、ドローンなど他の技術導入にも至った。

水田farmo概要

田んぼに行かなくても水位がわかる、給水できる！クラウド型水管理システム

機能の特徴

- スマホのタップ1つで田んぼに給水止水が可能
- リアルタイムで田んぼの水位を表示
- 水位の変化がグラフで確認でき、田んぼの状況や特性を知ることができる



水位センサー (19,800円/台)

15分おきに田んぼの水位を計測して、クラウドにデータを送信するので、常に最新の情報を確認できる。太陽光で発電するので、電源がない場所でも利用可能。



給水ゲート (52,800円/台)

給水ゲートと連携させるとスマホで給水・止水が可能に。希望の水位を設定しておけば、自動で給水・止水が行われ指定された水位を保つこともできる。

インタビュー内容

導入台数
上吉原さん:水位センサー13台、給水ゲート8台
五月女さん:水位センサー17台、給水ゲート4台

水田farmo導入のきっかけは？



上吉原さん

自身の会社もダム管理システムや水位計、雨量計などを取り扱う会社で、技術的に近いものがあった。社員が水田farmoを見つけ、話を聞いてみたのが始まり。



五月女さん

3,4年前にスマート農機の展示イベントで見つけたのがきっかけ。当時、(株)farmoは代金を米で支払う「1俵プロジェクト」をやっており、面白いと感じた。

他社製品と比較した水田farmoの魅力とは？



五月女さん

farmoは、操作、設置、見やすさ、スマホでOKなど、色々簡単。他の商品ではPCを起動しないとデータがみられないという不自由さがあった。値段もfarmoは特に安い。また、何か不具合があったときのコミュニケーションが取りやすく、相談時にレスポンスも早い。

今後のスマート農業に関する課題や要望などは？



上吉原さん

水田farmoに関しては、防水機能が強化されれば嬉しい。また、その上で6,7年は持続して使える安定性とメンテナンスの向上も期待している。



五月女さん

・畦畔草刈用のルンバのようなロボットが欲しい。除草用のモーターを使用しているがパワーが足りない。
・スマート農業機器については、経営全体を十分に分かった上で導入する必要性を感じている。親が経営を行っている若い農家では、価格に見合うかどうかの経営判断が難しい。

インタビュー協力：株式会社farmo
<https://farmo.info/>

